

2011/1/17 (mon)

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「NEWDAYS、携帯サイト開設&学校給食寄付つきキャンペーン」
- 2) 「買い物しながら社会貢献 “エシカル”消費広がる」
- 3) 「まんぷく DAY、地域で取り組み子どもに食事提供」
- 4) 「居酒屋気分、京阪“おでん de 電車”」

1) 「NEWDAYS、携帯サイト開設&学校給食寄付つきキャンペーン」

JR 東日本リテールネットは 1 月 18 日から、駅のコンビニエンスストア NEWDAYS において、駅という移動者マーケットと相性のよい携帯電話を活用した新しいサービス

「NEWDAYS 携帯サイト」を開始する。

新商品やキャンペーンなどの情報発信やおトクな NEWDAYS クーポンを配信し、新規顧客の獲得や利用頻度の向上を目指す取り組み。オリジナルデコメや車輜や駅看板などの電車デコメも利用できる。

クーポンとコンテンツ利用には会員登録が必要で、登録は無料。スマートフォンでも利用できる。今春以降、携帯電話を活用した「お買い物スタンプ」などのサービスも首都圏から順次スタートさせ、サイトの充実と顧客満足の向上を目指すという。

また、それと同時に 2 月 14 日までの期間限定で「カラダほっこり×ココロうるおい」キャンペーンを実施する。これは、お弁当、おにぎり、サンドイッチ、スープ、スイーツなど寄付つき商品 61 品目を展開し、1 商品につき商品代金の 3%が NPO 法人 TABLE FOR TWO International を通じて、アフリカの子どもに給食費として寄付されるというものだ。

2010 年 5 月 11 日から 6 月 21 日にも第 1 回の寄付付き商品キャンペーンを実施。寄付金額は 743 万 7097 円で、約 37 万食の給食（1 食 20 円）がアフリカの学校へ寄付された。

「ヘルシー志向の女性を中心に、ヘルシーなメニューをきちんと食べることで体の中からきれいになるのと同時に、社会貢献もでき、心もあたたくなることを目指す」キャンペーンだ。

NEWDAYS 携帯サイトに専用ページを設置し、対象商品の買上金額をサイトに入力すると、寄付された学校給食数がわかる取り組みも行う。

商品代も高くなく、少しずつでも毎日の利用が寄付に繋がる事が好評だ。ただ、海外だけでなく日本国内でも不自由のある環境が少なくないので、幅の広い活動を願う。こういった取り組みでコンビニやスーパーが“食”で貢献できる事は非常に意義があると思う。

2) 「買い物しながら社会貢献 “エシカル”消費広がる」

※エシカルとは

英語の ethic (倫理、道徳) の形容詞で、(1) 倫理的な、道徳上の (2) (社会規範に照らして) 正しい、などと訳されるが、実際に使われているニュアンスはむしろ「良心」の形容詞として「良心的な」「良心に叶った」「良心に恥じない」などの意味合いで使われている。エシカル指向のライフスタイル、略してエシカルライフがその好例。

売り上げの一部が寄付に回る商品などを好んで購入する「エシカル」な消費者が増えている。女性の購入が多い食品や日用品などの寄付つきの商品に加え、サービスや外食業界でも社会貢献の仕組みを取り入れる動きが広がっているからだ。ボランティア活動を組み込んだ海外旅行は参加者の7割近くが20代。男性も利用しやすい電子マネーや居酒屋のメニューなど選択肢がそろい、「エシカル」消費は担い手のすそ野も拡大している。

内閣府の2010年の調査によると、日本人の65%は「日ごろ、社会の一員として何か社会のために役立ちたい」と考えているという。右肩上がりが増えるこの傾向について、博報堂の亀田知代子主任研究員は「不透明な社会に対する不安や不満が募り、社会を変えたいという意識が高まっている」と指摘する。

イオンが全国14地域で発行する寄付つきの電子マネー「地域ワオン」。買い物での利用が多い女性に加え、地元への愛着心が強い男性もターゲットに据える。決済の利用金額の0.1%をイオンが地元自治体などに寄付する。発行枚数は現在25万枚程度。「それぞれの地域居住者に加え、出身地の電子マネーを持ち、ふるさと納税制度のように活用している」(イオン)利用者もいる。

居酒屋「うおや一丁」などを展開するヴィアホールディングスは10年12月から、注文1件ごとに10円をアフリカの子供たちの食費のために寄付するメニューを導入。大豆の「ベジミート」を使った「鶏肉もどきのベジ唐揚げ」など25品をそろえ、12月末までの寄付金の総額は32万円と「来店客の反応は上々」という。

社会貢献への意識は高くても、純粋に寄付やボランティアをするのはなかなか難しい。エシカル消費に飛びつく理由を亀田氏は「自分に負担をかけず普段の行為のなかで社会貢献したいという人が多い」と分析する。

形はどうであれ、寄付したいという心は素晴らしいものだと思う。ただ、こういった「寄付」の大半が貧しい国へのもののように思うが、その心が少しでも国内に向いたら日本国内で苦しんでいる人々も少しは救えるのではないかと感じたりする。

3) 「まんぷく DAY、地域で取り組み子どもに食事提供」

おなかをすかせた地域の子どもに、無料で食事を提供する取り組みが昨年9月から、東京都福生市の熊川児童館で始まった。児童館を運営する「ワーカーズコープ」が月1回、企画する「まんぷく DAY」で、地域の人々もボランティアで調理に携わる。子どもの成長を応援しようという地域ぐるみのイベントだ。「まんぷく DAY を始めます」。館内放送が流れると、子どもたちが次々と調理室に集まる。おなか膨れた後は、近くの中学校の保護者らで作る「おやじの会」メンバーのペルー人夫妻がダンスを披露し、「おやじバンド」がビートルズやイーグルスの名曲を演奏した。おやじの会の会長でバンドメンバーの土谷利美さんは

「子どもは地域の宝。ここで知り合った大人が近所にいれば、変なこともできない。みんなで見守りたい」と話す。

スタッフの野間尚子さんは「（給食のない）日曜日に来る子がイライラしているのに気づいた」と、食事提供を始めたきっかけを振り返る。イライラして体力が続かず機嫌が悪くなり、物や人に当たりケンカに発展することもあった。「心もおなかも満腹になって子どもと大人がつながれば、普段の生活にも変化が起きるはず」と、スタッフが発案した。昨年6月に民生委員や住民に呼びかけると、「おにぎりを作りましょう」「バンド演奏もやります」と、トントン拍子に話が進んだ。継続的な支援にしようと、協力者が「くまっ子応援団」も結成した。

まんぷく DAY には誰でも食べに来ることができる。昨年9月の初回イベントでは、約100食のおにぎりとおまねぎスープを提供し、太鼓サークルの演奏が行われた。

課題だった食材の確保は、市民活動を支援する一般社団法人「社会連帯機構」から15万6000円の補助金を得て、めどがついた。食材を持ち込み調理してくれる住民もいる。

「なくそう！子どもの貧困」全国ネットワーク共同代表の湯沢直美・立教大教授（社会福祉）は「特に母子家庭の親は仕事の掛け持ちや時給の高い深夜労働をするため、子どもの食事も用意するのが難しい現実がある」と指摘する。児童館が地域と協力して食事を無償提供する取り組みは珍しいという。「誰でも参加できるのはいい発想で、食を通して自然に地域とつながれる。親が福祉の相談窓口に行きにくくても、子どもの様子から行政的な支援につながることも期待できる」と評価する。熊川児童館では11月、家庭菜園を作った。子どもや地域の人と野菜を育て、まんぷく DAY で提供するという。

◇子どもと食費 国立社会保障・人口問題研究所の07年の社会保障実態調査によると、食費が足りなかった経験が「よくあった」と答えた世帯は2.5%だった。母子家庭など2世代の一人親世帯に限ると、8.3%。世帯タイプ別で最も高かった。また厚生労働省によると、子どもがいる現役世帯（世帯主18-64歳）の相対的貧困率（国民の所得を順に並べ、真ん中の人の所得額の半分以下で生活する世帯の割合）は06年時点で12.2%。一人親世帯は54.3%と先進国で最悪の水準だった。

未来ある子供たちのためにこのような取り組みがあることはとても関心もてる。

食という字が「人」を「良く」と書くように、人の心にとって食は大きな役割を果たすと常々感じている。食に一番近いスーパーマーケットにもできることはまだまだあるとこのニュースを読んで感じた。

4) 「居酒屋気分、京阪“おでん de 電車”」

電車内が居酒屋に様変わりする「おでん de 電車」の運行が、大津市の京阪電鉄石山坂本線で始まった。サラリーマンらの通勤時間に合わせ午後6時25分に出発する企画で、まず7-9の3日間運行。14、15の両日、さらに21日から3月13日までは毎日走る。昨年好評だったことから、運行日が倍増。担当者は「暖かい電車の中で、あつあつのおでんを楽しむという『非日常』を満喫してほしい」と話している。

昨年から始めた取り組みで、料金は1人3千円。7種類のおでんのほか、枝豆などが入ったおつまみ弁当がつき、缶ビールや日本酒なども。持ち込みは自由。居酒屋風に車内に赤いのれんやちょうちんを飾り付け、人気を集めた。去年は当初、週末だけだったが、途中から平日も運行するようになり、29日間で延べ1588人が乗車した。

こうした人気を受け、今年、運行日を倍となる57日間に増やしたほか、1人前のおでんの量を去年の3割増に。さらに、要望が多かった日本酒の熱かんを新たにメニューに加えた。電車は、2人以上で申し込み、出発の前日までに予約を行う。午後6時25分に浜大津駅を出発し、北の坂本駅まで行った後、折り返し浜大津駅を通過、南の石山寺駅まで運行。この後、再び浜大津駅に戻る約1時間40分のコース。

おでんde電車や、タマ駅長がTVCMになったり、ローカル線がまた賑わい出している。地方に面白い電車が有れば、旅行の交通手段に電車を使う人が増え、結果的にエコにも繋がるのでどんどん盛り上げて欲しいところだ。